

# 頸頸動脈超音波検査報告

患者ID： 1

前回の有無： なし

氏名： 健康 花子さん

年齢： 68歳

性別： 女性

## 【臨床診断・症状】

身長：175cm、体重：80kg、BMI：26.1kg/m<sup>2</sup>、血圧：145/75mmHg

1日の喫煙本数：10本/日、喫煙年数：30年間、Brinkman Index：300、飲酒量：1.8合/日

## 【基礎疾患】

高血圧症  脂質異常症  糖尿病  心筋梗塞  脳梗塞  脳出血  抗血小板薬

Bruit(左) ○あり ●なし      Bruit(右) ○あり ●なし

## 【左頸動脈】

平均IMT：0.5mm、0.3mm、0.7mm

最大IMT：1.3mm、Plaque Number：2個

Surface：Regular

Plaque：あり、Calcification：なし

Echogenicity：Isoechoic,Homogeneous type

## 【右頸動脈】

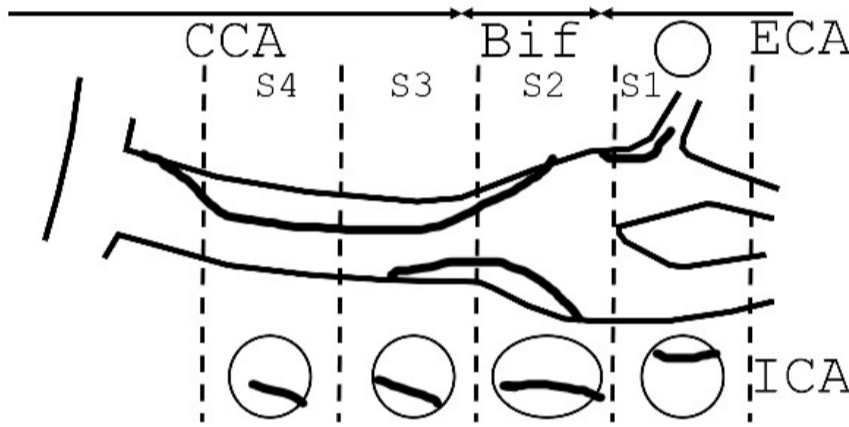
平均IMT：0.5mm、0.9mm、1.0mm

最大IMT：2.3mm、Plaque Number：4個

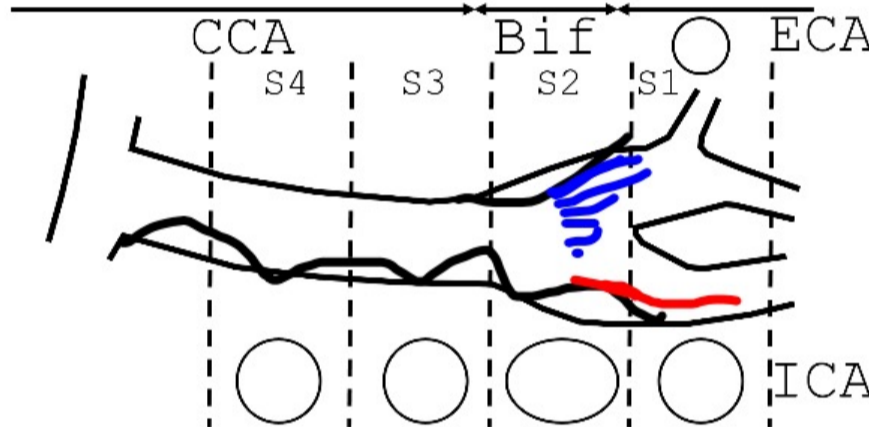
Surface：Regular

Plaque：あり、Calcification：なし

Echogenicity：Hyperechoic,Homogeneous type



Stenosis：66.7%(NASCET)、73.3%(ECST)  
左総頸動脈血流(EDV)：35mm/sec



Stenosis：61.5%(NASCET)、68.8%(ECST)  
右総頸動脈血流(EDV)：26mm/sec、ED ratio：1.3

## 【所見】

Lt：平均IMTは、正常範囲内ですが、プラークを認めます。また、石灰化は認められませんでした。早期動脈硬化研究会分類では、『IIa型プラーク』に該当します。

Rt：平均IMTは、軽度肥厚を認め、プラークも認めます。また、石灰化は認められませんでした。早期動脈硬化研究会分類では、『Ia型プラーク』に該当します。

左頸動脈の狭窄率について、NASCET法では66.7%であり、ECST法では73.3%が認められる。右頸動脈の狭窄率について、NASCET法では61.5%であり、ECST法では68.8%が認められる。

椎骨動脈について、椎骨動脈の異常は指摘できません。

甲状腺：異常(あり)、腫瘍(最大：12mm、場所：①、⑤、⑦)、内部エコー：均質、エコーレベル：高～低、境界部：整、低エコー帯：不整、

【その他】：たくさんのSOLが認められる。

## #1. Severe carotid atherosclerosis

(軽度～中等度の肥厚、高度なplaque)

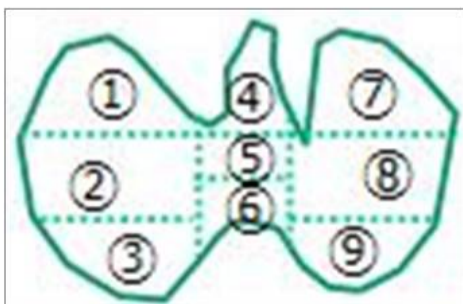
健診レベルでは、C2：治療中に該当

## #2.

## #3.

## #4.

【甲状腺における今後の方針】：嚢胞を認めます。



検査日：令和元年05月02日、検査担当：検査技師1

〇〇大学病院

Tel：092-xxx-xxx1、FAX：092-xxx-xxx1

# 頸動脈超音波検査報告

患者ID： 1

前回の有無： なし

氏名： 健康 花子さん

年齢： 68歳

性別： 女性

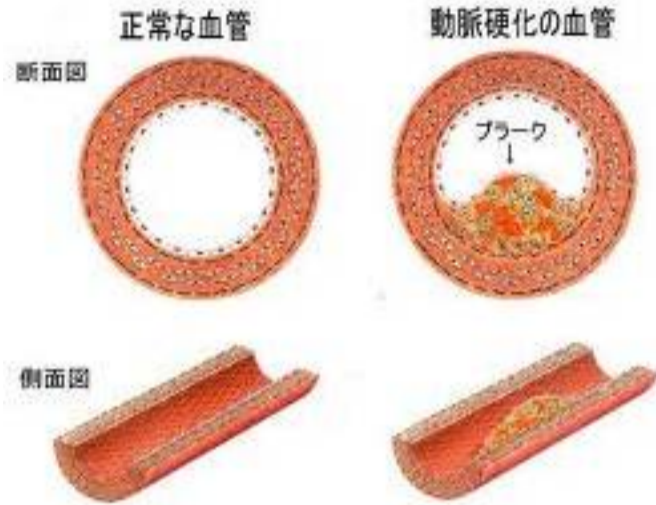
身長：175cm、体重：80kg、BMI：26.1kg/m<sup>2</sup>、血圧：145/75mmHg

1日の喫煙本数：10本/日、喫煙年数：30年間、Brinkman Index：300、飲酒量：1.8合/日

## 【基礎疾患】

高血圧症  脂質異常症  糖尿病  心筋梗塞  脳梗塞  脳出血  抗血小板薬

あなたのメタボリスク(生活習慣病)の数は、**2個**です。



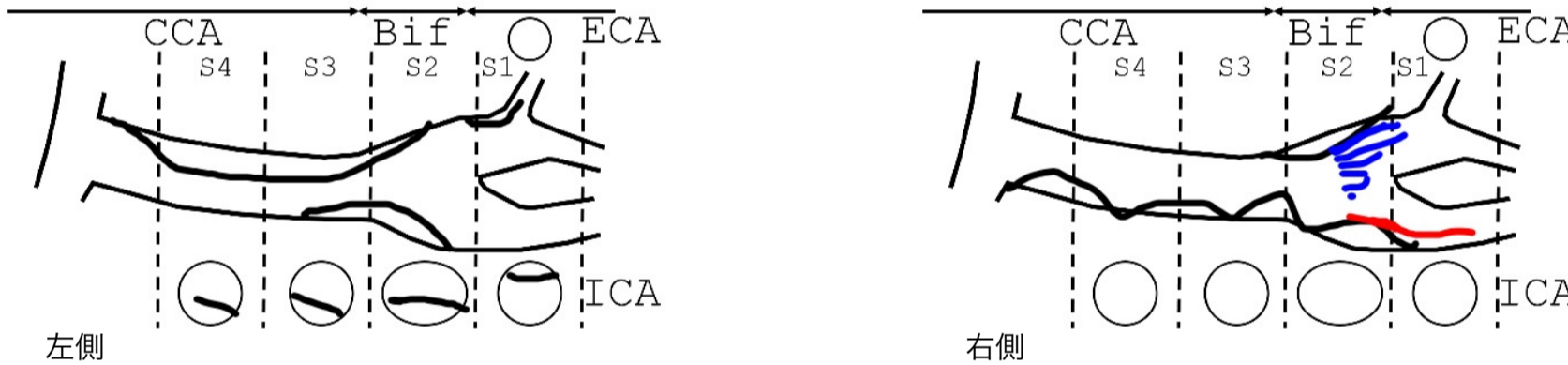
## 【説明】

①1.0mmを超える限局性の壁隆起を『**プラーク**』と呼び、プラークの破綻が脳梗塞・心筋梗塞などを引き起こす可能性があるといわれています。

『**プラーク**』が大きければ大きいほど、脳梗塞などの血管疾患のリスクが高くなります。

②『**石灰化**』も動脈硬化のひとつであり、『**プラーク**』がさらに進行した場合や、加齢に伴う動脈硬化として、高齢者に多く認められます。

【今回の検査のイメージ図】 この図は、今回の検査を分かりやすくしたイメージ図です。



左側の血管壁の厚さは、正常範囲内ですが、プラークを認めます。また、石灰化は認められませんでした。右側の血管壁の厚さは、軽度肥厚を認め、プラークも認めます。また、石灰化は認められませんでした。

本日実施したあなたの平均の血管壁の厚さは、**0.7mm**で、最大の血管壁の厚さは、**2.3mm**でした。

## 【総合評価】

平均の頸動脈の血管壁の厚さについて、0.8mm以下の厚さは正常範囲内ですが、血管壁厚の一番大きい場所では、2.0mm以上のプラークが一部に認められ、大きい動脈硬化があり、脳梗塞・心筋梗塞などの血管疾患のリスクが高い状態です。以上のことから、頸動脈の血管壁の総合評価は、『2.0mm以上の動脈硬化を伴う中等度～高度の肥厚した血管壁』になります。

このタイプの血管は、生活習慣病(メタボリスク数)を持つ患者に多く、さらに、生活習慣病の管理ができていない患者さんに多いです。その他、高齢者の年齢に伴う変化、タバコ(喫煙者)も関連しています。また、生活習慣病を改善しないことは、動脈硬化をさらに進めるので、今回の結果を真摯に受け止め、厳しく食習慣の改善・運動習慣の見直す必要があります。そして、脳梗塞(顔がマヒした・手がマヒしたなど)の自覚症状があった方は、頭部MRI検査などの専門の検査が必要で、血液サラサラの内服薬の適応となる場合があります。

生活習慣病の薬を内服されている方は、医師の指示にしたがって、しっかり内服を守る必要があります。半年以内の再検査を進められます。

検査日：令和元年05月02日、検査実施者：検査技師1

〇〇大学病院

Tel：092-xxx-xxx1